

SDGs と再認識で昨年より 7 倍の成果 ペットボトルキャップ回収運動

J A相模原市女性会の「ペットボトルキャップ回収運動」が前年度に比べ、7 倍の回収成果を上げた。SDGs につながる活動として 2021 年から力を入れた結果、女性会会員や地域利用者の理解・協力につなげた取り組みとして注目を集めている。

キャップ回収活動は、SDGs の理念である地球環境に優しい「エコ活動」と世界の子どもたちにポリオワクチンを届ける 2 重の取り組み。ペットボトルキャップ 860 個でワクチン子ども 1 人分として救うことができる。

同回収運動は 2011 年から、同女性会員で行っている長年の取り組み。SDGs が注目され、この活動を会員内だけで行うのはもったいないと、支店来店者にも呼び掛けを始めた。2022 年には、同 J A 女性会上溝支部と中央支部、麻溝台支部で、支店に来店した利用者が誰でもキャップを入れられるよう「回収 BOX」を支店窓口に設置するなど、積極的に活動。会員の回収率も上昇し、2022 年はキャップ 302290 個、ポリオワクチン約 351・45 人分相当を回収した。

同 J A 女性会の大久保秀子会長は「会員、一人一人の協力のおかげで大きな成果となった。捨ててしまえば、ただのゴミ。小さいことが世界の子どもたちを救い、SDGs にもつながるこの活動を今後も会員と地域住民へ積極的に呼びかけていきたい」と話した。

回収開始（2011 年）からの累計は、2675600 個、ポリオワクチン 3111 人分。



絵解き = 回収 BOX を囲む女性会の 5 役